

# もっと深めたい！ 担当者会議のあり方

第7回グローアップ学習会

日時：令和3年5月26日（水）

# 活動地域

主に糟屋郡6町を担当

・各町により、特徴は違う。山間部はJRやバスの便が不便な地域がある。また教育の方針も地域によって取り組みが若干、違う部分がある。

・人口推移が高い。(粕屋町は過去全国1位に輝いたこともある)その為、子どもの数も増えている地域もあり、児童の相談件数は増加傾向にある。福岡市も隣接している為、放課後等デイサービスも地域を超えて利用している方も多い。

・6町の総人口200,866人(9,065名(久山町)、47,937人(粕屋町))※新宮町が入ると23万人(福岡市東区の人口と同じ位)



## 担当者会議の開催についての根拠法

相談支援専門員は、障害福祉サービス事業者等との連絡調整等を行うとともに、相談支援専門員がサービス等利用計画案に位置付けた福祉サービス等の担当者を招集して行う会議の開催等により、当該サービス等利用計画案の内容について説明を行うとともに、担当者から、専門的な見地からの意見を求めなければならない。

障害者総合支援法（第15条第2項第11号）より抜粋

# 放課後等デイサービスガイドライン

○(障がい児支援利用計画と個別支援計画)両計画が連動して機能することによって、子どもに対する支援がより良いものとなっていくものであり、この連動の重要性を認識しておく必要がある。

○サービス担当者会議に参画する担当者は、障害児支援利用計画案に位置づけられた放課後等デイサービス事業所に期待される役割を確認するとともに、障害のある子どもが、他の子どもや地域社会から安易に切り離されないための配慮等、子どもの最善の利益の観点から意見を述べることが重要である。障害児支援利用計画のモニタリング時には、その時点までの放課後等デイサービスの提供状況を踏まえて、課題への達成度や気づきの点等の情報を積極的に述べることが重要である。設置者・管理者は担当者をサービス担当者会議に参画させるに当たっては、このような役割を明確に認識しておく必要がある。

私たちは、利用者が自ら望む自立した地域生活の実現と継続に向けて、多様な人々と連携・協働し、包括的・全人的な支援を提供します。利用者の支援に際して構築されるチームは常に本人を中心とし、このチームが地域のネットワークとして発展するよう努めます。

相談支援専門員の行動指針より抜粋

## 大切にしている視点

○チームアプローチの契機となる。(顔の見える関係づくり)

チームとは「共同で仕事をする一団」

アプローチとは「接近すること。働きかけること」

→本人の希望する生活に向けて、集まった関係者が協力し、一体となって支援を行っていく。

「チームとして本人を応援するための場」(エンパワメント)

## 多職種連携・チーム支援の必要な理由（重要性）

【例えば】障害児・者のニーズに基づいた、サービス提供をするため以下のような場合に、連携が必要不可欠になる。

- 相談支援は基本的にマネジメントに徹すべき（直接支援が必要な場合もあるが）。直接サービスを提供するためには連携が不可欠。
- サービス等利用計画・個別支援計画書に「実現できなかったニーズ」、「反映できなかったニーズ」がある場合。
- 事業所としての関わりが部分的で、生活の全体像が見えない場合。
- 複数のサービスを使い分けて、生活している利用者の場合。
- 早急に対応が必要なニーズと、時間を掛けて結果を出すニーズを混同している場合。
- 複合的なニーズを有し、サービスが有効かつ効果的に使われていない場合。
- 意思疎通やニーズ表出が難しく、ベストインタレスト（最善の利益を生み出す決定）を、追求しにくい場合。
- 専門的なアセスメントが必要な場合。（医療・保健・教育など）
- その他……
- ★相談支援専門員が、新しい気づきを得て、より良い支援を提供するため。

## 多職種連携・チーム支援の重要性の5つの認識

多様な「ニーズ」や「社会情勢」の変化に対応するため

1. 多元性

1人の相談や一つの機関でできることには限りがある

2. 限界性

連携やチームでの対応により、できることやアイデアが広がる

3. 可能性

得手・不得手、過不足を相互にカバーし補完し合える

4. 補完性

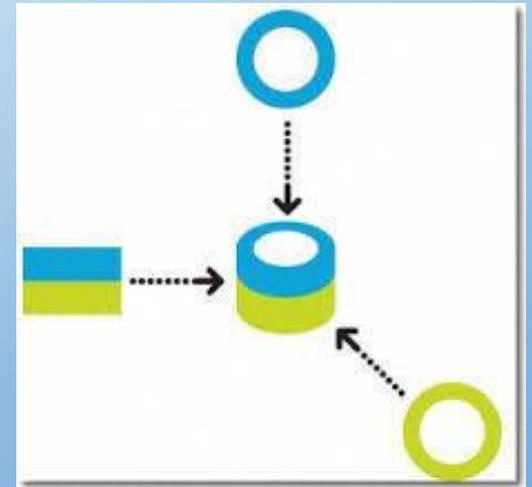
自分や事業所、連携各機関の実践力や質の向上につながる

5. 付加性

# 視点の違いとは



他者・多職種から見てもらうことで、違った視点から見ることができ、違ったアセスメントと支え方が導入できます。



# 女子団体パシュートの快挙

○平昌オリンピック女子団体パシュート代表の金メダル獲得の裏には

→約300日間、寝起きから共に過ごし、作り上げたチームワーク、スキル(PDCA)

○本人の望む暮らし(しあわせ)の実現に向けてチームが一丸となって足りない部分を補い合えるチームを育てていく。

Social workらぼ代表 日本相談支援専門員協会 アドバイザー  
田畑 寿明氏の資料より参照



# 相談支援専門員に求められる役割

## ○ファシリテーション能力が必要

→ファシリテーションとは「容易にする」「円滑にする」「スムーズにする」

- ・意見を引き出す(人の話をよく聴く)
- ・周りの人に気配りする
- ・明るい雰囲気づくり

## 大切にしている視点②

「会議に参加してよかった！」と感じてもらえるようにと意識している。  
その為には事前の準備（連絡調整・シナリオづくりなど）が大切。

→会議の結末は、会議が始まる前にほぼ決まっている

準備が全てだと  
僕は思ってるんで  
準備の段階で  
試合は始まっている



## 大切にしている視点③

○サービス等利用計画案の確認をおこなう時に、意見などを踏まえた結果、修正や追加の必要性がある時は、会議後に加筆修正し、再び利用者や家族に説明し、合意形成を得た上で、事業所に交付するようになっている。

→この機会には会議での感想や、その後の変化などを聴ける機会となる。

## これからも・・・

本人が力を発揮できるチームづくりをおこなう上で、大切な機会でもある担当者会議、また大きな意味でいうと本人の希望やニーズを通して、地域づくりの契機となる場でもあります。これからも意義や目的などをしっかりと意識しながらおこなえるように研鑽していきます。

この場を借りて、いつも貴重な業務時間を割いて、担当者会議などにご参集していただき感謝申し上げます。